

文献資料  
紹介  
〈第15回〉

# 下屋久村郷土史

山本秀雄

屋久島の郷土史関係書は少いといわれ、殊に江戸時代は唯一上屋久町文化財指定の『楠川文書』が薩摩屋久島奉行所設置以降、明治に至る藩の達示文書で、その数量、内容から貴重といわれながら、公開される程整理もされず、また活字にもなっていないのが残念である。

そこで古いものは置き現代の郷土誌を調べて見たが、地元で発行されたものは昭和十二年発行、上屋久村宮之浦小学校編の『郷土研究』と、昭和二十五年下屋久村編の『村づくり指針』、及び昭和三十九年屋久町教育委員会編の『屋久町誌』を知るのみであったが、最近、大正三年、下屋久村の各小学校で校区ごとにまとめたものを一冊にした『郷土史』を見ることが出来たので紹介したい。

いつ頃からこの様式を用いることになったのか、編・章・節を設けて、沿革・自然・産業・経済・教育文化・神社仏閣・民俗・名勝

地・人物など、一定形式に従って調査編集している。

なおこの郷土史は表紙・奥付け・挿絵一枚もなく文字だけ、当時の生活の乏しかった時代を写しながら、なぜか美しい風景を見るようなカナ文字が懐かしい。実は本のさわりをと思ったが、かねて行き来する村ですべてが重要なことであるから、全文を写すことにした。

参考までに記せばこの本の出来た大正三年（一九一四）は、アメリカの植物学者アーネスト・ヘンリー・ウイルソン博士（ウイルソン株の紹介者）が来島した年である。七十五年前のウイルソン博士の見た屋久島と現在との違いに思いを至すことにも意義ある本といえないか。

ついでながら下屋久村教育会編集の大正十二年発行本、『下屋久村郷土誌』も更に一冊発見されていることをお知らせして置く。

# 郷土史

大正三年下屋久村教育会編

## 目次

平内・湯泊

概要、沿革

位置、地勢、氣候

交通、産業

神社仏閣

平内尋常小学校歴

尾ノ間・小島

安房・船行

原・麦生

## 平内・湯泊

### 概要

本地ハ大隅国佐多岬ニ距ルコト七十八海里ノ洋中ニアリ。屋久島ノ南方面ニシテ、平内・湯泊ノ二部落ヨリ成ル。氣候温暖、地味膏腴ニシテ、五穀・甘藷等豊饒ナラザルナク、林業ハ屋久杉著名ニシテ、椎茸・松材有望ナリ。海産ハ鰹・飛魚等有利ナリ。斯ノ如ク豊富ナル天恵ヲ享有シ、土地廣潤ナルモ、人口稀少ナルガ為メ

未ダ開墾セザル土地多ク、産額モ亦見ルベキ無シ。

### 沿革

本地ハ古昔益救島ト称シ、後益救島郡ト称シ、太宰府所管ノ一ナリ。平氏滅亡ノ際、種子島氏ノ領地トナル。永録四年六月、島津右馬頭以久ノ領トナル。慶長四年六月、再種子島氏ノ領トナル。時ニ島津氏一時本地ヲ借用シテ管理セシガ、同十七年ニ至リ全ク其直轄スル所トナリ、以後種子島氏モ亦島津氏ニ臣属シ、其ノ政治ハ元ノ如ク綜理シテ明治維新ノ際ニ及ベリ。明治三年ヨリ四年迄地頭ヲ置カレ、平内、湯泊各戸長ヲ任命シテ統治セラル。明治十二年、郡長ヲ置カルルニ当リ、郡役所ヲ鹿兒島ニ置キ、馭謨郡ト称シテ管轄セラル。

明治十二年十二月、原村、尾之間村、小島村、平内村ニ戸長一名ヲ置キ、戸長役場ヲ尾之間ニ置ク。又、湯泊村、中間村、栗生村ニ戸長一名ヲ置キ、戸長役場ヲ栗生ニ置ク。

明治十五年十一月十八日、改制アリテ栗生、中間、湯泊、平内、小島ノ五村ニ戸長一名ヲ置キ、戸長役場ヲ栗生ニ置カル。

明治十七年十月一日、改制アリテ平内、湯泊、中間、栗生、船行、安房、麦生、原、尾之間、小島、十村ニ戸長一名ヲ置キ、安房村ニ戸長役場ヲ置カル。

明治十八年八月六日、及十九年十二月ニモ管轄ノ変更アリテ、二十二年四月、町村制実施ニ当リ西之表ニ郡役所ヲ設置セラレ、熊毛・

馭謨兩郡ヲ保管ス。而シテ船行乃至粟生ヲ一村トナシ、下屋久村ト稱シ、有給村長・助役ヲ置キ、自治制トナリ、村役場ヲ尾之間ニ移轉セリ。

明治三十年四月、兩郡合併シテ熊毛郡トナル。

### 位置地勢

屋久島ノ内南面ノ地ニシテ東ハ小嶋ニ接シ、西ハ中間ニ境ス。南方ハ太平洋ヲ望ミ遙ニ七島ノ眺メアリ。北ハ山岳重疊シテ樹木鬱蒼トシテ人跡稀ナリ。民ノ住スルモノナク、只鹿ト猿ノ住スルニ任ズルノミ。人民ノ住スル所ハ東西二里、南北十町ノ半環狀形ノ海岸傾斜ノ一部分ニシテ、西ノ部落ヲ湯泊ト稱シ、東ヲ平内ト稱ス。海岸ハ斷崖絶壁ノ地ノミニシテ砂浜ナク、土地亦傾斜凸凹殆んど山腹ノ形ナリ。山岳中ニテ重ナルモノヲ七五岳、烏帽子岳、ハサ岳、権現岳等アリ。

ハサ岳ハ平内ノ北方第一番二聳へ樹木繁茂セリ。今ハ官林ニ編入セラル。

七五岳ハ神ヲ祭ル所アリ。平内・湯泊・中間・栗生ノ人々、年ニ一回、総代ヲ立テテ必ズ參詣スルヲ常例トス。里程二里アリ。一日二往復セリ。遙ニ七島沖ヲ望ミテ眺望甚ダ佳ナリ。烏帽子岳ハ、ハサ岳ト七五岳トノ間ニアリ、險阻ノ場所多シト云フ。権現岳ハ、ハサ岳ノ東ニ聳ユル高山ナリ。河川ハ皆尽ク細流ナレドモ、其ノ數十數流アリテ灌漑ノ便ヲ有セザルナシ。湯川、岳川、小湯川、大崎川、下ノ川、木戸川、椎野川、境川等ヲ主ナルモノトス。皆岩石ノ間ヲ走りテ、材木ヲ流スノ便ヲ有セズ、魚族モ鱒ノ産スルノミ。湯河ハ八重岳ニ源ヲ發シ流レテ鬼田ノ瀧トナリ、下ニ瀧壺アリ、風影甚ダ佳ナリ。冬季鴨ノ浮ビ遊ブ事多シ。南流シテ湯泊ノ東平山トノ間ヲ流レテ海ニ入ル。当区第一ノ大河ナリ。

平内温泉ハ海辺ニアリテ岩隙ヨリ湧出シ、鉄・硫黄ヲ含ミ、溫度又体温ニ適シ、疥癬・リユーマチス等ノ疾病ニ特效アリ。故ニ遠方ヨリ入浴スルモノ其ノ効ナクシテ帰ル者ノナシ。然レドモ惜ムラクハ干潮ノ際ニ入浴スルヲ得ルノミ。

湯泊温泉ハ海辺ニアリテ、溫度ハ平内温泉ヨリモ低温ナルヲ以テ治療泉トシテハ適セズ、只垢落シノ便トナルノミ。

### 氣候

冬季ト雖モ霜雪ノ降ルコト少ク、裕一枚ニテ通シ得ルト云フ。夏季ニ至レバ甚ダシク暑カル可キ筈ナルモ、海風常ニ吹キ来ルガ故ニ敢テ暑サヲ感ズルコトナシ。蜜柑類、樟、甘蔗ノ成長ニ適シ、特ニ薩摩芋作ハ年中植付ケラレ居ルヲ見テモ、其ノ如何ニ熱帶的ニ近キカヲ知ルニ足ラン。

降雨ハ、洋中ナルトハ八重岳ノ高キトノ關係上非常ニ多ク、四月下旬ヨリ九月ニ至ル半歳ハ降雨ナキノ月トテハ稀ナルノミナラズ、豪雨十數日ニ渡ルコト珍ラシカラズ。又、風ノ立タヌコト四六時中殆んど見ザルナリ。且ツ晴雨ノ變化甚ダシク、時ニ思ハヌ風雨ニ出遭ヒ進退谷マルコトアリ。今大正元年ニ於ケル湿度最高八十八度、最低五十一度、平均七十四度、晴天百五十二日、曇雨二百十三日ニシテ、曇雨天ノ如何ニ比較的多キカヲ見ヨ。

### 交通

内地トノ交通ハ、本区域内ニ汽船ノ往復スルコト今日ノ処全ク之レナク、サレバトテ、宮之浦ニ至ルニハ拾里ヲ距テテ居ル上ニ道路山坂險難ノ所多ク、車馬ノ通行到底出来ズ、交通ノ不便最モ甚シ。万一旅客ノ荷ヲ運ブアランカ、人ノ背ヲ以テスルカ船ヲ以テスルカノ二途ニ出デザルベカラズ。船ヲ以テスルハ時日ノ正確ヲ期ス

ベカラズ。何トナレバ、風波ノ如何ニヨリテ、何時ニテモ往復スルコトハ望ムベカラザレバナリ。且ツ荷ノ夥多ナキ時ハ人ノ背ヨリモ多額ノ費用ヲ要スルノ不利モアリ。剩ヘ舟運ヲ營業トスル者トテハナク、必ズ腰ヲ屈シテ依頼セザル可カラズ。県下ニ於テ、交通不便ナルコト第二等ニ属スルコトハ、県ノ公報モ示ス所ナリ。

人ノ背ヲ以テスルニハ多額ノ費用ヲ要ス。一肩一里ニ付約二十五錢ノ割合ナリ。且ツ大ナル荷ハ到底肩フ可カラズ。嗚呼、此ノ地ノ交通ノ便ヲ謀ル尤モ急務ナルモ、亦如何ナル方法ニ依ルベキカ、前途望ナキノ有様ナリト言ハザルベカラズ。

### 部落

平内、戸数四十六。人口二百八十一、内男百四十二人、女百三十九人。一戸平均六・一人ニ当ル。生業ハ半漁半農的ニシテ、極テ幼穉ノ仕事振リナリ。漁夫六十人アリ。平内尋常小学校、屋久島小林区第五号平内保護区官舎、屋久島警察分署平内巡査駐在所アリ。

湯泊、戸数五十。人口三百四十三、一戸平均六・八六人ニ当ル。内男百八十一人、女百六十二人。生業ハ平内ト同ジ。

湯ノ上、戸数九。人口三十四、一戸平均三・六六人ニ当ル。内男十七人、女十七人、平内部落民トシテ共同の仕事、行政管轄ヲ受ケ居レリ。

保安林 平内、湯泊、何レモ其ノ周囲ノ森林ハ保安林ナリ。

### 産業

此地ノ生業ハ全ク漁業ニ属シ、文鯨魚ト鯨ノ漁ヲ以テ生活シ来リテ、鯨節・干文鯨魚ハ日本全国ニ名高シ。然レドモ、世ノ進運ニ伴ヒ、種々ノ故障ノ為メ右両漁ノ捕獲ハ年々減少シツツアレバ、

数年ノ後ハ全ク杜絶スベキ運命ニアレバ、人民生計ノ途ヲ失ヒ困難甚ダシク、遂ニ生業ヲ農ニ求メザルヲ得ザルニ至リ、数年来、漸々田畑ノ開墾ニ志シ、彼所此所ニ水稻・陸稻・甘蔗・薩摩芋・粟・そま・麦・豌豆・ガゼツ等ノ栽培ヲ見ルニ至レルガ、大ナル岩石ノ突出 甚ダシク散在シ、且ツ土地傾斜ニシテ牛馬耕ニ適セズ、人手ヲ以テ耕鋤スル外途ナキノ状態ニアレバ、農業ノミニテ生計ヲ営ムニ至ル迄ニハ尚ホ十数年ヲ要スルナル可シ。今日ニ於テノ産物ハ、米ハ勿論薩摩芋等全部ヲ合セテ住民ノ食半歳ヲ支フルニ足ラザルノ状態ニアルガ、住民ハ薩摩芋ヲ常食トシ、米ヲ常食トスル者ハ殆ンド皆無ノ有様ナリ。然レドモ他ニ衣食ヲ求ムルノ途絶テ無クナリタレバ、今日ノ所、産物トシテ輸出ヲ見ル可キモノハ殆ド之レ有ルナシ。若シ強テ之レヲ言ハシメンカ、海岸ニ生ズル布海苔ハ中春ノ頃一二日間住民拳ツテ取得スル位ナルモ、其ノ総額ハ二千五百斤ヲ下ラズト云ヘバ、一斤二十五錢ト見テモ価格六百二十五円ハ取得ス可キ筈ナルガ、今少シク良法ヲ加ヘナバ猶ホ增收ノ余地アルベキカ。只、米作、甘蔗作、薩摩芋作ノ如キハ、土地ノ價格廉ナレバ優ニ耕作シテモ前途望ミヲ属スルニ足ルアルノミニ止ルナリ。

### 陸産物

米作 水田ハ二十三町五反五畝四歩、其ノ收穫約二百三十五石五斗ナレバ、戸数百ニ対シ一戸平均二石三斗五升五合ノ割合ナリ。薩摩芋作 畑百九十九町三反四畝二十六歩ナレバ、約二百町歩ト称シテ可ナリ。之レニ栽培スル薩摩芋ハ、年ニ依リテ差アルモ、大正元年度ノ植付ハ六十町歩ニシテ、其ノ收穫十九万八千貫、其ノ價格九千九百円ナリ。一戸平均六反歩、千九百三十貫匁、九拾九円ナリ。

麦作 麦作ハ、水田ニ二毛作トシテ作ルト畑ニ作ルトノ方法ヲトリ居レドモ、至ツテ僅少ノモノニテ、到底味噌用ヲモ充タスニ足

ラズ。特ニ其ノ收穫ノ如キ、往々穂ヲ摘ミ取ル如キ幼穉ノ仕方ナリ。又、一畝二升位ノ收穫ナリ。

粟作 一戸一反歩ヲ耕作スル者ガ一番多キナリト云ヘバ推シテ知ルベキノミ。平均一戸二、三畝ニモ達セザルベシ。且ツ收穫モ一畝五升位ノモノナリ。

そま作 粟作ト同一ノ状況ナルガ、氣候ノ關係カラカシテ前途望ミナシ。

豌豆作 水田ニ二毛作トシテ耕作スルモノ最モ良好ノ收穫ヲ得テ前途大ニ望ミヲ属スルニ足ル。特ニ大豆作ハ全ク望ナキ所ナレバ、之レニ代用スル上カラシテ大ニ奨励ニ値スルモノト信ズ。

がぜつ作 土壤ニ適スルノカ氣候ニ適スルノカ、何レニシテモ收穫宜シク、一畝歩ニ付七千八百本、一本壹厘ノ価ニテ販売サレツツアルガ、斤売ナラバ一斤六錢ニテ一畝歩ニ付百三十斤、価七円八十錢ヲ收穫スル割合ナルモ、未ダ多ク耕作セシモノアルヲ見ズ。大ニ研究試作シテ可ナランカ。併シ乍ラ漢方醫師ノ薬用品トシテ購入セラルルノミナレバ、需要少ナキ為メ其ノ價格ノ上下スルコト甚ダシク、時ニ全ク無価ノモノトナルコトアレバ、安心シテ熱心ニ作ルコト能ハザルモノナリ。

芭蕉作 明治四十一年頃、苗ヲ香港ヨリ牧野郡長（元熊毛郡長）ガ取寄セタルモノヲ嚙矢トス。其後、台湾種、小笠原種等ヲ取寄セテ各所ニ植エ付ケツツアルガ、三年生ニ実リ、一種五、六拾錢ニテ販売サレ、一回植エ付ケル時ハ永遠ニ根生シテ耕作物トシテハ尤モ氣楽ノ作物ナリト称ス。別段肥料ヲ施スモノナケレドモ、肥料ヲ施ストキハ別種類ノ如キ程優等ノ実リヲナス。

黒葛原氏熱心ニ耕作シツツアル外、未ダ耕作物トシテ植附ヲナスモノナク、僅ニ園生ニ二、三本宛植付ケテ居ルノミ。其ノ結果ノ良否ハ未ダ発表シ得ザルナリ。

陸稻作 近年耕作スルモノアルヲ見受ルガ、一畝歩玄米五升位ノ收穫ナリト云フ。

甘蔗作 明治二十年頃ヨリ栽培シテ可成收穫ヲ上ゲ居リシガ、其後、台湾等ノ大々的製造ノモノノ圧迫ト消費稅ヲ附課セラレシタメ中止セシガ、近年又之レガ栽培ヲ見ルニ到リ、將來盛ニ栽培セラレントシツツアリ。今日ノ栽植戸數五戸ニシテ、反別二町歩、其ノ収量四千二百斤、價格四百二十円ニ上ル。

本村財政根源トシテ、甘蔗作ト共ニ、大ニ奨励スベキモノナリ。品質ハ台湾種ニ劣ラヌ程ニシテ、之レガ製造方法ニ熟練センカ、最上ナルモノヲ得ルニ到ラン。船行ヨリ粟生ニ進ムニ從ヒ、品質ノ佳良ナルヲ見ル。之レ地質ノ關係ニ依ルコト多カラン。

蜜相類、耕作物トシテ植付ケアルヲ見ズ。只ダ庭園ニ私食用トシテ栽植セラル。氣候尤モ適スルハ勿論ナレバ、大ニ改良シテ一大規模ノモノトセバ如何カ。今日ノ所、種類悪シク市ニ運ブニ足ラズ。宜シク良種ヲ選択シテ改良スルコト尤モ急務ナリ。

肥料ノ運搬等 肥料ハ小屋ヲ設ケ居ルモノナク、至ツテ幼穉ノ製法ニシテ只ダ牛馬糞・人糞ヲ施スニ止リ、骨粉ヲ使用スルモノハ至ツテ稀ナルガ、其ノ肥料ヲ運搬スルニ全ク人背ヲ以テスルガ故ニ施肥量ニ影響シ、畑作ハ土地ノ天質ヲ利用セザレバ耕作シ得ズ。久シク放棄セラレテ草原トナリ地質肥エタル際ニ開墾シテ、肥料ナクニ、三年耕作シ、後、肥料ヲ施シテ耕作スルコト三、四年ニ及ベバ瘦地トナルガ故ニ、再ビ放棄シテ草ノ繁茂ニ任ズルナリ。土地經濟上大ニ研究スベキ余地アルナリ。

屋久杉ハ官有林ニ生ジ、之レヲ払下テ自家用及販売用ニ供ス。其下渡原価ハ安キモ、運搬ニハ必ズ人ノ背ヲ以テセザルベカラザルノ困難ナルタメ、多額ノ費用ヲ要スルヲ以テ、市場價格ハ稍々高キモ利益ヲ得ル処ハ少ナシ。其ノ質ノ佳ナルコト全国ニ名高シ。然



正祀 大山祇命

祭日 十一月十五日大、八月三十日小

氏子 三十戸 社地二畝二十四歩

当社 草創年歴不詳、村ノ出口右手ノ山二鎮座

紀奇 伊奘諾尊拔劍斬軻遇突知命為三段其一段是為雷神一段是為大山祇命ト。亦曰ク、伊奘諾尊遂拔所帶十握劍斬軻遇突知命為三段世各化成神也其一段是為大山祇神。

社頭、拜殿、鳥居、海ニ向ヒタリ云々。

平家城

湯泊ノ西半里ニシテ高ク聳ヘタル山嶽上ニアリ、昔時平家ノ亡ブルヤ逃レ来リテ住シ此所ニ城キテ自ラ警戒シタリト云フ。附近ニテハ今日時々矢ノ根石ヲ見出スコトアリト云フ。

八幡神社

応神天皇ヲ祭レル郷社ニシテ平内ヲ距ル東四町位ノ道路ノ傍、森ノ中ニアリ。区民及他地方ノ人々ノ信仰厚ク、旧七月八月ノ十五日ニハ祭礼ヲ挙グ。社ニ宝刀及ビ巻物ヲ藏ス。而シテ其起原ヲ詳ニセザルハ遺憾ナリ。

仏閣ノ跡 今平内小学校ノアル処ハ昔時法華宗ノ寺ノアリシ所ナリシトノコトニテ、墓石並ニ地ならしセシ所今ナホ存在セリ。特ニ寺僧ノ内地ヨリ移植セシト伝フルむく木二本ハ、毎年実リテ昔時ヲシノブモ亦アハレナリ

宗教

法華宗ハ平内二十八戸アルノ外、全部眞宗ナリ。法華宗寺ハ原ノ寺ニシテ、眞宗寺ハ栗生ノ大照寺ナリ。年ニ一回位、僧侶ノ来リテ説教アルノミニシテ、門徒ノ寺ニ詣デテ説教ヲ聞ク如キハ殆トアルナシ。埋葬ノ際モ、無免許僧ニ依リテ仮埋葬ヲナスモノ十中五、六ヲ占ムルノ有様ナリ。宗教費用ハ一年一戸ニ粃五升、金十六錢宛

ナリト云フ、尤モ他地方ヨリ寄留スルモノ二十戸、即チ住民五分ノ一ハ其ノ何レモ判明セザルモノ多シ。

平内尋常小学校歴（字平内ニ在リ）

明治十三年三月十日、平内小学校立ツ（教員一名肝付剛兵衛氏、児童五名ナリ）。教員ノ給料ハ米ニシテ年給タリシガ、同十五年二月、金ニ改メ月給トナル。二十年三月、平内簡易科小学校ト改称ス。二十六年一月一日、湯泊簡易科小学校ヲ合併シ平内尋常小学校ト改定ス。同三十一年九月、改築工ヲ起シ、翌三十二年十一月、落成ス。同二十六年三月一日、補習科ヲ設置セシモ、同三十一年九月、之ヲ廃止ス。同三十一年十二月、裁縫科ヲ加入ス、三十二年四月、二級級ヲ編制ス、四十一年四月、五級年ヲ置キ、同四十二年四月、六級年ヲ置キ、以テ三級級編制トナル。今其職員交替及学校一覽表、学級編制表ハ次ノ如シ。

明治四十五年度初期ノ学級編制表ハ次ノ如シ。

学級	学年			児童数			受持教員 資格 氏名
	第一学年	第二学年	第三学年	男	女	計	
第一学級	第一学年	四	六	一〇	一一	二一	訓導 赤木源次郎
	第二学年	一一	一〇	二一	二二	四三	
	第三学年	一一	一一	二二	二二	四四	
第二学級	第四学年	九	九	一八	一八	三六	代用教員 岩川濟一
	第五学年	一一	一一	二二	二二	四四	
	第六学年	一一	一一	二二	二二	四四	
第三学級	第六学年	一一	一一	二二	二二	四四	訓導 岡留寛志
	第五学年	一一	一一	二二	二二	四四	
	第四学年	一一	一一	二二	二二	四四	
裁縫							代用教員 遠藤タケ

# 尾ノ間・小島

## 一 位 置

尾ノ間ハ東境川ヲ以テ原ト界シ、西鈴河ヲ以テ小島ト界シ、小島ハ西尾ノ間ノ飛地ナル平内牧ヲ隔テテ平内ニ対ス。両字何レモ南ハ渺々タル太平洋ニ面シ、北ハ重畳タル俊岳ヲ負ヒ、本島ノ南及南東部に位ス。

## 二 面 積

東西ノ延長凡一里十町、面積一・一一方里（尾ノ間〇・七二方里、小島〇・三九方里）ニシテ、内民有地反別（尾ノ間二四二六八畝〇歩、小島二〇五一三畝一四歩）四四七八一畝一四歩、官有地反別（尾ノ間八八六二六畝二〇歩、小島三八八三七畝〇歩）一二七四六三畝二〇歩アリ。

## 三 地 勢

北部ハ宮ノ浦岳ヨリ分岐セル大小ノ山脈重畳錯綜シテ本富岳・割石岳・芋塚岳等ノ俊岳所々ニ屹立シ、屋久杉其他ノ良材ヲ出ス。海岸一帯ノ地ハ徐々ニ傾斜セル平野ノ中ニ丘陵起伏シ、田園ノ開墾造林ノ計画漸ク盛ナラントス。  
河流ハ鈴河及本富川ヲ以テ大ナルモノトシ、数多ノ小川平野ノ間ヲ流レ、其ノ大ナルモノハ何レモ深谷ヲナスト雖モ水源高キガ故ニ灌溉ノ便甚多く、水力ノ利用ニ適ス。水勢急ナルヲ以テ降雨アレバ忽チ増水シ、晴ルレバ忽ニシテ減退ス。

海岸ハ出入乏シク概斷崖絶壁ニシテ、尾ノ間・小島ノ両浦アレドモ風波ヲ凌グニ適セザレバ、漁船ハ常ニ陸上ニ引上グ。岬角ニハ谷先ノ鼻（尾ノ間）、山ノ瀬（小島）、浦崎（同上）等アレドモ、著シク突出セルモノニアラス。地味、花崗岩ノ分解土ヨリ成リ、肥沃ノ場所少カラズ。

## 四 戸 数 ・ 人 口

尾ノ間一〇七戸、男三二二、女二七四、計五八六人  
小島 三二戸、男一〇一、女 九八、計一九九人

## 五 気 象

北部ニ高山屏立シ、東南ハ暖流漲レル太平洋ニ面スルヲ以テ、氣候温暖ニシテ嚴冬ノ温度華氏五〇度ヲ下ルコト稀ニ、従ツテ平地ニ霜雪ヲ見ルコト極メテ少ク、只山岳ニ白雪ノ皚々タルヲ見ルノミ。盛夏ノ際ハ涼風大洋ヨリ吹キ来リテ華氏九〇度ヲ超フルコト稀ナリ。雨量ハ甚多く、最近三カ年間ノ降雨日数平均二百三十三日ニシテ、殆一カ年中三分ノ二ハ雨天ナリ。  
小旋風非常ニ多く、木葉塵埃ノ空中ニ卷キ上ゲラレ、又ハ海上ニ龍卷ヲ見ルコト往々アリ。

## 六 生 物 ノ 分 布

### 1. 植物

地勢及氣象上ヨリ寒温熱ノ三部ニ分レ、山嶺ニハ石楠、柏、杉等ヲ生ジ、山麓ニハ榕樹、芭蕉等繁茂ス。

### 2. 動物

獸類ハ其ノ種類極メテ少ク、鹿、猿、鼬、鼠、獺ノ外野獸ヲ見ルコトナシ。



鳥類ハ雉、山鳥、鴨、鴛鴦、鵝等ヲ始トシ、常棲スルモノ又ハ  
候鳥ナド其ノ数多シト雖モ、獨雀ノミハ之ヲ見ルコト稀ナリ。

魚類ハ其数甚多く、特ニ鯉・文鯿魚ハ季節的特産物ト云フベシ。  
サレド海岸砂浜ナキヲ以テ鱧等ヲ見ルコトナク、又まだヒヲ見ルコ  
ト稀ナリ。

淡水魚類ハ河川急湍ナルヲ以テ極メテ少ク、鯉、鮒、鮎等ヲ見  
ルコトヲ得ズ。鰻、蝦等ノ少数アルノミ。

貝類モ亦少ク、二枚貝ハ僅ニ岩石ノ間又ハ小石ノ中ニアルモノ数  
種ノミ。サレド螺類ハ其数多ク、法螺貝、なかにし、其他ノモノヲ産ス。

3. 海藻ハふのり、てんぐさ、あをのり、もだま等ヲ始トシ、其ノ  
種類甚多シ。

(植物補遺) 野生ノ草花ニハ女郎花、たんぽぽ見ズ。

4. 蛇類、とかげ類等モ多ク、やもり、まむしハ特ニ多シ。昆虫類  
モ亦其数多ク、蜂、虻、蠅、まつむし、すずむし等数フルニ違アラ  
ズ(動物補遺)。

## 七 産 業

住民ノ割合ニ土地広キヲ以テ、未ダ開墾セラレザル草野多シ。明  
治三十年頃マデハ専水産業ニ従事シ、鯉節及飛魚ノ産額多大ニシ  
テ富有ノ生計ヲナシ居タリシモ、近時漸ク不漁ニ赴キシヲ以テ、今  
ヤ一転シテ農業ヲ主業トスルニ至レリ。

### 1. 農業

米、麦、甘藷ノ産出ヲ努メ、一面製糖業ヲ奨励シテ主産物トシ、  
財力ノ復興ヲ計リツツアリ。

### 2. 水産業

従来ノ主産タリシ鯉・漁ハ全ク廃棄セラレテ、只飛魚漁業ノミヲ  
営ミ居レリ。

海藻ニハふのりヲ産スレドモ其額多カラズ。

### 3. 林業

屋久杉製材及椎茸製造ヲナスモノアレドモ其産額少シ。

造林業ハ近時大ニ奨励セラレ、杉、樟、栽植年々ニ進ミツツアリ。

### 4. 畜産業

豚ノ飼養ハ奨励セラレツツアレドモ未ダ盛ナラズ。

使役用牛馬ノ飼養モ亦多カラズ。

## 八 交 通

近時道路ノ開鑿、橋梁ノ架設ヲナシツツアリト雖モ、未十分ナ  
ラズシテ陸上ノ交通不便ナリ。海路ハ時々和船津廻ト稀ニ汽船ノ来  
レルアルノミニテ一層ノ不便ヲ感ズ。サレバ旅行者ハ多ク歩行シテ  
自荷物ヲ背負ヒ、或ハ強力ヲ雇ヒテ之ニ負ハシム。

## 九 通 信

尾ノ間ニ郵便電信局ノ設アリテ甚便利ナリト雖モ、冬期風波ノ險  
悪ナル時其他ノ故障ノタメ汽船ノ往来滞リテ、タメニ郵便物ノ遅着  
スルコト多キハ遺憾ナリ。

## 十 官 公 所 ・ 学 校

1. 郵便電信局ハ尾ノ間ニアリ。郵便局ハ明治二十五年十月始メテ  
設置セラレシガ、明治三十八年日露戦役ノ際、海軍防備ノ必要上ヨ  
リ浦崎ニ假設望樓設ケラレ、宮ノ浦間ニ電話架設セラレ、以テ今日  
ニ至レリ。

2. 鹿兒島裁判所尾ノ間出張所ハ明治三十二年四月ニ設置セラレ、  
下屋久村内ノ登記事務ヲ掌ル。

3. 下屋久村役場ハ尾ノ間ニアリ。明治二十三年ニ安房戸長役場ヲ

下屋久村役場ト改メテ村制ヲ施行シ、明治二十四年一月、尾ノ間ニ移  
転シタリシガ、更ニ明治三十五年三月、現在ノ位置ニ改築移転シタリ。

4. 尾ノ間尋常高等小学校ハ明治十二年三月十日ノ創立ニ係リ、  
当時尾ノ間小学ト称セシガ、明治二十年四月、尾ノ間簡易科小学ト  
改定、同二十六年一月、小島簡易科小学と合併シテ尾ノ間尋常小  
学校ト改称、後修業年限二ケ年ノ設置セシガ、同三十五年七月、補  
習科ヲ廃シテ修業年限二ケ年ノ高等科ヲ併置シ、同四十一年四月一  
日、改正小学校令ニヨリテ高等科消滅シ、尾ノ間尋常小学校ト改  
称、同四十二年五月、高等科（修業年限二ケ年）ヲ附設シテ現今ノ  
制トナレリ。

### 十一 神社仏閣

1. 尾ノ間ニ保食神社アリ、倉稻魂神ヲ奉祀ス。神風乃伊勢乃国宇  
治原ニ御鎮座須豊受比売尊乃御分靈ナリト云フ。無格社ニシテ陰  
曆九月九日ニ例祭ヲ行フ。

2. 小島ニ菅原神社アリ、菅原神ヲ祀ル。無格社ニシテ一月二十五  
日ニ例祭ヲ行フ。

3. 仏閣ナシ。

### 十二 宗教

眞宗アリ、日蓮宗アリ。神道アリト雖モ、何レモ其ノ信念著シ  
カラズ。サレド一般ニ敬神ノ風アルハ慶スベキコトナリ。

### 十三 名勝旧跡等

#### 1. 花江河

宮ノ浦岳ノ南部ナル山中（八合目位）ニ太古ノ噴火口ノ跡トモ見  
ルベキ凹地アリテ、一面ニ青キ毛氈ヲ敷ケルガ如キ芝生ノ中ニ、天

然ノ築山アリ、泉水アリ、迂曲セル小川アリテ、所々ニ石楠、柏、  
杉、其他ノ高山植物倭生シ、紅、黄、白、紫ノ草花ハ其間ヲ彩リ、  
眞ニ自然ノ庭園ヲナシテ、夏時登山ノ客ノ賞観スル所ナリ。

#### 2. 耳岳

尾ノ間ヨリ望メバ耳朶ノ太キ大入道ノ坐セルガ如キ形ヲナシ、  
本富岳、割石岳ト共ニ怪岩高ク鼎立シ、突兀タル奇景、栗生ノ浜、  
安房川ト共ニ下屋久三景ト称スベシ。

#### 3. 蛇ノ口瀑布

鈴河ノ中流ニアリテ一條ノ瀑布直下九十八丈、恰モ水晶ノ簾ヲ  
懸ケタルガ如シ。瀑壺ノ深淵ハ一小池ヲナシ、奇岩怪石モテ其周圍  
ヲ繞ラシ、其間ニ躑躅、川桜等叢生シ、開花ノ候ニハ其ノ美觀言  
フベカラズ。池上ニ遊泳スル鴛鴦ノ陸シゲナル様、又愛スベシ。

#### 4. 浦崎

小島ノ西南ニアル岬角ニシテ、洋上ノ遠望ニ適セルヲ以テ、明治  
三十七、八年戦役ノ際ニハ海軍仮設置瞭ノアリシ所ナリ。

#### 5. 温泉

尾ノ間ノ西方六町許ニアリ。岩隙ヨリ湧出シテ瘡疾ニ効アリ。  
数個ノ浴槽ヲ設ケ、附近ニ人家十余軒アリ。多クハ老人ノ静養所ニ  
シテ、又浴客ノ止宿ニ便ス。場所閑静ニシテ眺望宜シク、浴客常  
ニ絶ユルコトナシ。農閑ノ際ニハ遠ク種子島ヨリ来ル者多シ。

#### 6. 湯ノ峯

温泉場ノ西南海岸近クニアリ。眺望佳ナルヲ以テ遊山ノ場所トナ  
ス。後ニ耳岳ヲ負ヒ、前ニハ水天ノ際ニ七島ノ浮ベル景、実ニ雄大。

#### 7. 轟めき

小島ノ西南海岸ニアリ。断崖ニ空洞アリテ、一方海中、三方ハ崖  
ノ中腹ニ口ヲ開キ、怒濤押寄スレバ轟々タル響ト共ニ上口ヨリ水煙  
凄マジク吹き出デテ霧ヲナシテ壯觀ナリ。

8. 其他  
小島ノ浜、尾ノ間ノ谷崎、共ニ海岸ノ眺宜シキヲ以テ各々遊宴ノ地タリ。

十四 口碑伝説

1. 小島ハ元、当部落ヲ去ル十町許ノ西方恋泊ニ住居セシガ、何時ノ頃ニカ現今ノ場所ニ移住セシモノナリト伝フ。
2. 尾ノ間ノ東方十町許ナル地ニ、一小峯アリ。其ノ附近ハ、開墾ニ際シ、粘土製素焼様ノ鍋・釜類ノ如キ器物及石斧等ヲ掘リ出セルヲ以テ、往古部落ノ跡ナラント云フ。
3. 小島、尾ノ間ノ界ナル鈴河ニ沿ヘル原野中ニハ、所々ニ高サ七八尺ニ余レル細長石立テリ。之ヲ矢石ト称シ、神ノ投ゲ給ヒシモノナリト伝フ。

十五 人情風俗

1. 婚儀  
男子ハ多クハ丁年ニ達スル頃ヨリ泊宿ヲ定メテ此処ニ寝ネ、男女相知リテ婚約ヲ結ビシ後双方ノ父母ニ承諾ヲ求メ（媒介人ヲ頼ミテ）簡單ナル祝宴ヲ以テ自宅ニ引入ル。
2. 葬儀  
葬家ニハ近親集リテ品礼ヲ行フ。神仏各々簡單ナル式ヲ行ヒテ墓

所ニ送ル。途上近親婦女ノ号泣スル様哀レゲニモ亦異様ナリ。又部落内ノ男女老幼ハ途上ニ出デ、樹枝ヲ投ジテ亡者ニ手向ケシガ、今ハ此事ノミハ止ミテ、路傍ニ立並ビ会送ノ意ヲ表ス。以前ハ当日部落中業ヲ休ミシモ、今ハ其事ナシ。忌中近親ノ男ハ白又は紅ノ布ヲ帯ビ、婦女ハ白又はハ紅ノ布ヲ頭ニ被ル。

3. 出産

出産ノ際ハ祝宴ヲ張ルモノ少ク、兒女ノ歩行スルニ至リ餅踏祝トテ盛宴ヲ張ル。

4. 神事

一般ニ神事ヲヨク行ヒ、敬神ノ風アレドモ、迷信的ノ事多シ。次ノ如キハ漸次改良スベキ点ナラン。

い、神無月ノ初ト終トニハ、神ヲ送迎スル意ナリトテ青年が通夜ノ酒宴歌舞ヲナスコト。

ろ、月待トテ、陰曆正月二十三日ニ、部落各戸ヨリ集リテ通夜ノ酒宴歌舞ヲナスコト。

5. 一般礼儀

簡單不秩序ニシテ、嚴肅ナル儀例ニ適ハザルコト多シ。

6. 言語

簡單ニシテ高声ニ失シ、敬語未明カナラズ。且發音ノ誤多ク、ザ行・ダ行・ラ行ノ誤特ニ多シ。